

◎軍配山古墳ノ由來微證

左ニ其ノ碑文ヲ掲グ

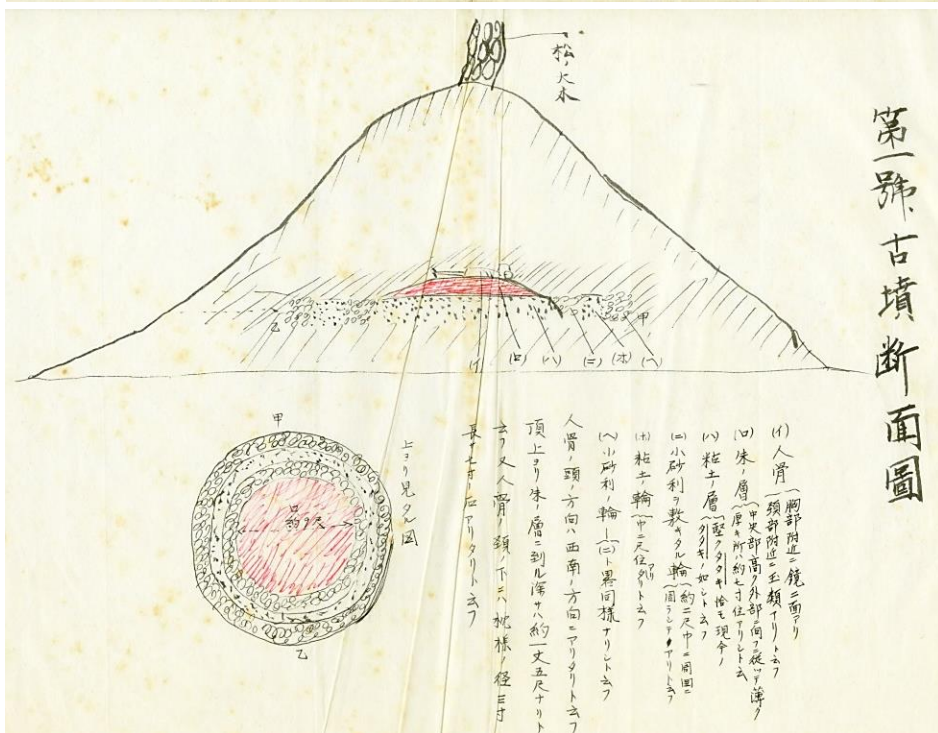
篆額筆者 帝室博物館總長
從三位勳二等孝學博士 杉榮三郎

撰文者 帝室博物館鑑査官
從六位勳六等 後藤守一

碑文ニ曰ク

當古墳ハ里俗御幣山又ハ軍配山ト稱ス 清和天皇開
東ニ行幸アリ勅使河原某郷導導ニ依リ當國郡被郡茂
木卿ノ長者ノ許ニ成ラセ給ヒ 暫ク行宮ヲ營マセラレテ御
幣留アリ御幣中此ノ山ニ奉リテ 神祇ヲ祀ラセ給ヒシヨリ御
幣山ノ名アリト謂フ又軍配山ノ名ハ瀧川一益奉旨ニ降シ
軍配ヲ此ノ山ニ奉ケシニ因ハトイフ 名ノ起ル所近古ニ在リト
雖モ山ハ上古期ニ屬スル大圓墳ニシテ 景行天皇ノ御時
東山道十五國ノ都督ヲ拜シテ中途穴昨邑ニ遊幸アリシ
時狭島王ノ陵墓ナリト傳フ 昭和五年二月発掘ニ過ヒ
鮎鏡鏡硬玉勾玉等ノ副葬品出シ之ニ因リテ當古
墳ハ皇紀八百年代前後ニ築造ニ係ルヲ想ハシム 上毛ノ
地往々焉狹島王陵ト傳フルモアリ 本古墳元即之ニ屬ス
ベキカ

出土遺物が宮内省ニ買上ヲ受クルヤ村民相謀リ下附金
ヲ以テ碑ヲ建テ事ヲ永久ニ傳ヘントシ余ガ職ヲ帝室博
物館ニ奉ルノ故ヲ以テ文ヲ求メラル不敏當ラズト雖モ村民



玉村町指定史跡 軍配山古墳
昭和戦前地元の人間により墳丘が削り取られ、幾多の出土品が発見されました。
(職員撮影)

軍配山古墳の図（古墳調査台帳）

昭和 10 年(1935)

古墳調査台帳第 34 巻の佐波郡玉村町第 1 号古墳は、大字角淵^{つのぶち}に所在する軍配山古墳^{ぐんばいやま}〈町史跡〉です。古墳調査票には、古墳の平面図と断面図とともに、墳上の記念碑に記された古墳の由来が付されています。

碑文には、清^{せい}和^わ天皇行幸に関わり御幣山^{おんべやま}と呼ばれ、滝川一益^{かずやす}が軍配を上げた伝承から軍配山と呼ばれたことなどが記されています。天正 10 年(1582)の神流川合戦には、こうした伝承が各所に残されており、上州における織田支配の盛衰が地名に刻まれて伝わっています。

＜群馬県登録文化財＞
群馬県行政文書 A1007A0B No.33

古墳調査台帳

昭和 10 年(1935)

古墳調査台帳は、昭和 10 (1935) 年 8 月から 9 月にかけて県内全域で実施された古墳調査により得られた古墳調査票が綴られた台帳です (全 41 冊)。調査票は、一定の調査方針に基づき古墳 1 基ごとにまとめられ、古墳の平面図や断面図、スケッチ、写真、由来などの資料が添付されています。

調査後の昭和 13 (1938) 年、古墳調査台帳を基礎資料として『上毛古墳綜覧』(古墳数 8,423 基) が刊行され、その後の県内の古墳研究の基本文献となりました。全国に類を見ない、大変貴重な古墳の調査記録です。

＜群馬県登録文化財＞ 群馬県行政文書 A1007A0B No.33